

2018 年度事業報告

(2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

1、事業の成果

第 5 次 3 年計画では、「分かち合う暮らし」の浸透、「政策提言活動の推進」、「支援者を増やし次の世代の担い手を育成すること」、「財政構造の多様化」、「発信の充実」を重点課題としました。

2018 年度はその最終年度に当たるため、これらの重点課題に取り組むことを念頭に活動を進めました。その具体的な成果は次年度に生かすように取り組んでいきます。

活動目標：

- ・ 自立支援プログラムの継続。
- ・ 会員拡大、ともに活動する人を増やす。
- ・ 報告会、学習会を通し情報の発信を行う。
- ・ 自立支援プログラムでわかったことを共有する機会、交易販売の場を生かして、共感者の輪を広げる。
- ・ ボランティア受け入れ態勢を明確化し、参加の場を作る。
- ・ 連携する団体共同で、活動から見えた課題解決に向けた提言を行う。

成果：

- ・ 今までチームごとの活動が中心であったが、横断的な話し合いができたことで活動全体への理解が進んだ。
- ・ 総会で決定された活動を推進するために「活動推進チーム」を立ち上げ、このチーム活動により、地球の木カフェという新しい形態のミニ講座を開催することができ、活動の広報につながった。
- ・ 自立支援プログラムでは、ネパール、ラオス、カンボジア 3 か国へのモニタリング（現地調査）を理事、チームで実施した。

課題：

- ・ ボランティアの拡大や活動を継続するための新たな人材の確保を課題として取り上げながら、具体的な参加を増やす活動ができず、実現できなかった。
- ・ 会員については、減少傾向に歯止めがかからないが、3 年間で方針化した新たな寄付先である書き損じはがき等の物品寄付や、指定寄付や年末募金などの寄付金は順調に進んだ。

2、事業内容

1) アジアにおける社会的に困難な境遇にある人々に対する生活基盤確立のための自立支援事業

<ネパールにおける自立支援事業>

活動目標：住民参加型の開発のモデルを作る。

- 1、「幸せ分かち合いムーブメント」を展開する中で、住民主体のロールモデルを作る。
- 2、国内でキャンペーンを行い募金による活動の共感と資金集めを行う。
- 3、地球の木カフェを県内各地で開催し支援者を増やす。
- 4、モニタリング、スタディツアーの実施。

成果：

<海外>

- ・ 現地パートナー団体SAGUNによる活動地700世帯への参加型状況調査が区政に評価され、行政に反映されるよう

になった。行政でできることは行政に任せるルール作りが緒に就いた。

- ・ 奨学生16名の学費、補助教員3名の報酬を支援した。英語教育のための教師トレーニングは、参加者が学んだことを実践に移し、教材を作成するなどの成果が見られた。
- ・ 2年間継続してきたヤギ飼育プログラムでは、グループのヤギの数が2倍以上になり、ヤギを売った収益は、子どもの教育費や家族のために使われた。10世帯中9世帯がヤギ購入した際の融資金を返済することができ、資金は次のグループに回される。2018年度にスタートした同プログラムも順調に進んでいる。

<国内>

- ・ 教育サポーター募金（1口1,000円）を呼びかけ、目標とした45万円を超す470,400円の寄付を集めた。
- ・ 地球の木カフェを7か所で開催。延べ71名が参加。地域と繋がり、理解を広げることができた。
- ・ 1月にモニタリング（2名参加）、3月にスタディツアー（4名参加）を実施した。
- ・ 三井住友銀行ボランティア募金（100万円）を獲得した。この寄付金は2018～2019年度にかけて教育支援・生活改善支援などに使用する。

課題：

<海外>

- ・ 教育プログラムやヤギの飼育プログラムではSAGUNとともにある程度成果が見えてきたが、これらを将来行政へ移管した後、どのような方向でSAGUNとの協働を継続していくか検討を要する。

<国内>

- ・ 地球の木カフェへの参加者を会員に誘うことで会員の拡大を考えていたが、会員へのハードルは高かった。まずは、活動に関心を持ってもらい繋がっていききたい。
- ・ 地球の木カフェのファシリテーターが固定化している。新たな人材の養成が必要である。
- ・ スタディツアーのコーディネーターの人材が不足している。ツアー参加者獲得が難しい。責任ある役割を担うコーディネーターの養成も含めて今後実施の有無も検討が必要である。

日時：通年 | 場所：神奈川県及び近隣都県 | 従事者人数：18名

受益対象者：ネパール、マンガルトール区、カルパチョーク区、ポカリナラヤンスタン区の住民

経費：2,016,938円

支援プログラムの概要：

地球の木とSAGUNは、「真の開発は地域の人々が主体となるべきである」をスローガンに、人々の能力・知恵・考え・技能を信じ、文化を尊重して、人々が社会にどんな変化を望んでいるかを共に考え計画づくりをしてきた。

ネパールでは、国内に仕事がないため若者たちは出稼ぎや留学で村から出ていき人口の流出が止まらない。このような中、村に居ながらにして高等教育が受けられる奨学金制度を設け、教師が不足する小学校に対しては教師給与をサポートし、教師トレーニングで地域の教育の質を向上させてきた。また、2015年の地震の後、貧困家庭に対しては、地の利を活かしたヤギの飼育支援を行っている。収入が得られるようになると子どもを学校に行かせることができるからである。

私たちは人々の自立を目指して支援しているが、行政ができることは移管していく。これまでの地道な行政へのアプローチが功を奏し、行政と協働で農村開発のプログラムを行うことができるようになってきた。

<ラオスにおける自立支援事業>

活動目標：村人主体で森を守り、暮らしを守る活動を支援する。

- 1、新規事業開始にともない、現地プログラムの理解を深めるためにモニタリングを実施する。
- 2、ラオスの森の開発が、日本の私たちの暮らしと直結するという問題意識を持って、国内で発信していく。
- 3、活動への共感者を増やすことに注力する。

成果：

- ・ 日本国際ボランティアセンター（JVC）主催の支援団体対象のスタディツアーに2名参加し、住民たちが自分たちの暮らす地域について客観的に理解し、主体的に問題意識を持ち外部に発信していくことを活動の目標とするなど、新規事業の具体的な内容が理解できた。
- ・ 横浜市内に残る瀬上の森で、ワークショップ「森の中で森の話～ラオスの場合・日本の場合～」を実施。瀬上の森の多様性について話を聞き、ラオスのワークショップも行うことで、森林保全の重要性など共通の課題を実感できた。また、国内の森林問題にも目を向けたことで、今後新たなネットワークの期待を持つことができた。（7名参加）
- ・ JVCの現地スタッフ帰国時及び国内担当者によるラオス事業の報告会を開催し（2回）、プログラムの進捗状況と森林開発への課題を共有した。（15名参加）
- ・ 自然資源管理に対する現地の人材育成費等に支援金50万円が活用された。

課題：

- ・ ラオスを伝える活動や日本の森林問題を学ぶ機会を設けるなど国内活動をさらに充実していく必要がある。
- ・ 地球の木カフェ等の機会を活用して参加者の拡大に努める。

日時：通年 | 場所：神奈川県及び近隣都県 | 従事者人数：17名
 受益対象者：ラオス、サワンナケート県ピン郡、アサパントン郡1,412世帯
 経費：998,913円

支援プログラムの概要：

パートナー団体のJVCは、土地収用や環境破壊によって農地や森、水などの生活基盤が脅かされている人たちの暮らしと権利を守るため、村人による自然資源管理の実現や行政への提言を行っている。

具体的活動：

- ①自然資源の管理と利用に関して地域の基礎的データを収集、分析し、地図化して共有する。
- ②住民や担当行政官に対し、自然資源の管理、利用に関する住民の権利の法律研修を行う。
- ③収集、分析したデータに基づき農業技術研修を行い、衛生的な水確保のための井戸掘削を行う。
- ④活動の質の向上と成果の普及のため行政関係者、研究者、他のNGOスタッフ等とのネットワークを構築する。
- ⑤環境保全や農業技術の講習諸活動の拠点として、アサパントン郡とピン郡に1か所ずつ研修施設を建設する。

<カンボジアにおける自立支援事業>

活動目標：折れない心で立ち直る女性たちを応援する。

- 1、CWCC（カンボジア女性緊急救済センター）が実施する事業の中で、家庭内暴力やレイプなどで被害にあった女性たちを保護し、身体的、精神的回復を助け尊厳を取り戻し、新しい生活が始められるように支援する。

成果：

- ・ 地球の木講座「今知っておきたいカンボジアの話」をスタートとしてカンボジアチームを年度初めから立ち上げ、年間を通じて学習会等を実施したことで、カンボジア国内情勢やCWCCの活動に対する理解が深まった。
- ・ CWCCの保護施設（シェルター）から退所する際の支度金の支援を行った。この支度金は、生活を再開する際の費用（食費等）や、野菜を育てて売る仕事を始めるための資金等に使われた。
- ・ シェルター運営費用の支援（医療費、食費、職業トレーニング等）を実施した。
- ・ モニタリングを実施した。（3名参加）
- ・ スタディツアーに向けた現地調査を行い、現地での訪問先やワークショップ実施など可能性を知ることができた。

課題：

- ・ 報告会、スタディツアーは実施できなかった。またメンバーをカンボジアに関心ある人たちに広げることができなかった。

- ・カンボジアを知るためのワークショップの準備は行ったが、実施には至らなかった。

日時：通年	場所：神奈川県及び近隣都県	従事者人数：14名
受益対象者：カンボジア、CWCCブノンペンシェルターのサバイバー 経費：1,086,755 円		

支援プログラムの概要：

CWCC は、「女性の自立」を目標にカンボジア全域で女性と子どもの権利の保護、社会変革のアドボカシー活動を行っている。様々な暴力の被害を受けた女性や子どもたちのためのシェルター（避難所）を持ち、DV 被害者、性的暴力の被害者、人身売買等の被害者がここで一時生活をして、家庭や社会に戻るための訓練を行ったり、心身の傷をいやすための活動、被害者の立場に立った訴訟等を行う活動をしている。

<気仙沼における自立支援事業>

活動目標：地元のためにがんばる若者を応援する。

- 1、NPO 法人 Tree Seed が行う、地域生活の場を分断された子どもたちの育成のための「体操教室」の支援。
- 2、子どもたち主催のイベントの費用の一部を支援。
- 3、生活クラブ生協主催「東日本大震災・復興支援まつり」への参加支援。

成果：

- ・地域のつながりを再生させるため、Tree Seed の活動に協力し、子どもたちが主催した「チョコレートワークショップ」を 2 回実施した。（30 名参加）
- ・「東日本大震災・復興支援まつり」では、Tree Seed のメンバーとお祭りの参加者・地球の木メンバーと交流し、意見交換等を行った。
- ・Tree Seed による活動が一定の成果を上げたことで、2018 年度を最後に支援金による活動応援は終了した。
- ・今後は地域のコミュニティ再生のための青少年育成を学校や地域と協力してやっていくという Tree Seed の活動を尊重し応援していくこととした。

日時：通年	場所：宮城県気仙沼市	従事者人数：14名
受益対象者：気仙沼在住の子どもたち 経費：317,074 円		

2) 相互の自立に役立つ生産物の交易

<クラフト事業>

活動目標：

- 1、イベントやお祭りに参加し、地球の木の活動を紹介しながら「幸せ分かち合いクラフト」等の販売を行う。
- 2、生活クラブ生協、福祉クラブ生協と協力し、クラフトの販売を進める。
- 3、有償ボランティアの参加等によりチームメンバーを強化する。
- 4、生産者との交流や現状を把握するため、またクラフト購入のため生産者を訪問。

成果：

- ・イベント（ふくしま祭り、「東日本大震災・復興支援まつり」等）に参加し、地球の木の活動の広報と共に販売を行った。
- ・生活クラブ生協（1 回）、福祉クラブ生協（2 回）の共同購入、生活クラブ生協デポーでの販売（29 か所）を実施した。
- ・デポー等での販売ボランティアの知識向上のため 2 回学習会を開催した。

- ・クラフト生産者や現地調整員との信頼関係もでき、問題解決能力もついたことで交渉や買い付けもスムーズに行うことができるようになった。
- ・生産者との交流や現状把握、クラフト品購入のため2回現地（カンボジア）を訪問した。

課題：

- ・デポ等の販売ボランティアの不足。

3) 相互理解を深めるための交流並びに国際協力推進のための社会教育事業

<出前講座>

活動目標：

- 1、「分かち合う暮らし」発信のため出前講座を実施する。
- 2、オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業に参加する。
- 3、エコロ講座への依頼を増やすために、内容の見直しとアピール活動を行う。
- 4、ファシリテーターの養成を行う。
- 5、研修やイベントに参加する。

成果：

- ・常連校3校（横浜、鎌倉、町田）で出前講座を実施した。
- ・2校（東京都）でオリンピック・パラリンピック教育推進支援事業の出前講座を実施した。
- ・エコロ講座は、内容の見直しを地域生協へアピールしたことで5か所から依頼があり、「マジカルバナナ」、「フードマイレージ」の講座を行った。（延べ60名参加）
- ・学校地域コーディネーター・フォーラムや、「甘いバナナの苦い現実」セミナーへの参加、「おせちから世界が見える」ワークショップを実施した。
- ・「ようこそ私の国・ぼくの村へ」のワークショップを作成し、よこはま国際フォーラムで実施した（13名参加）。

課題：

- ・人材確保が難しく、ファシリテーター養成はできなかった。今後具体案を検討していきたい。

<地球市民活動>

活動目標：

- 1、参加しやすい多様な方法で地球の木講座、報告会、イベント、学習会を実施し、「分かち合う暮らし」を発信する。
- 2、地域のイベントに参加し、地球の木の活動をアピールする。
- 3、参加メンバーの増員。

成果：

- ・地球の木講座「今知っておきたいカンボジアの話」実施（32名参加）。
- ・地球の木カフェ（8回）を実施。
- ・かながわ湊フェスタ、ひらつか市民活動センターまつり、よこはま国際フェスタ、なか区民活動センター祭り、かまくら国際交流フェスティバル、ちがさきこどたん（こどもたいけん☆ワイワイまつり）、オルタ館フェスタに参加。主にクラフトの販売とミニワークショップ、活動紹介を実施した。
- ・生活クラブ運動グループ主催の「東日本大震災・復興支援まつり」に参加し活動アピールとクラフト販売を行った。

課題：

- ・新たなボランティアを増やすことができなかった。

<販売事業>

活動目標：「国際協力カレンダー」、開発教育教材「マジカルバナナ v3」の販売を行う。

成果：

- ・ 壁掛けカレンダー631部（発注数 650部）、卓上カレンダー17部（発注 19部）を販売した。
- ・ 「マジカルバナナ v3」を本体 29部、CD-ROM18枚、カードセット6セットを販売した。また開発教育協会（DEAR）の開発教育全国研究集会で委託販売を行った。

課題：

- ・ カレンダーの市場が縮小しており売上が年々減る傾向にある。発注数を減らすなどの対策が必要。
- ・ 「マジカルバナナ v3」のワークショップでの販売は難しい。継続販売するためにはフィリピンの現地状況のアップデートが必要。

4) 社会教育事業に関して、機関紙等の広報活動並びにそれらを通して行う政策提言などの事業

<広報>

活動目標：

- 1、年 4 回機関誌の発行。
- 2、ホームページの改定を行う。
- 3、Facebook などを通じて情報発信を行う。

成果：

- ・ 年 4 回、会報誌を発行した。各号でその時々の活動の報告を含め、地球の木の目指す方向性などを記事にした。
- ・ ホームページの「ニュース」、「新着イベント」欄のシステムを改定した。
- ・ ホームページ、Facebook などを通じて情報発信を行った。

課題：

- ・ 外部の人に原稿依頼をするなどの会報誌の企画の充実が未達成となった。
- ・ ホームページの海外支援プログラムの情報が古く更新が必要である。

<政策提言>

活動目標：

- 1、地球の木から見えた課題に対して、広く社会に発信していく。
- 2、連携する団体やネットワークを持つ団体と共同で、提案や提言を行う。

成果：エシカルバナナキャンペーンに賛同し、フィリピンバナナ農園労働者の問題解決への「請願書」をスミフルジヤパン・住友商事に NPO 法人 APLA とともに提出した。

5) この法人の目的にかなう事業を行っている団体との情報交換及び協力事業

活動目標：以下の団体に参加、協力して活動を行い、共に情報の発信などを行う。

横浜 N G O ネットワーク（理事）

かながわ生き生き市民基金（理事、評議員）、キララ賞選考委員会（委員）

「南北코리아と日本のともだち展」絵画展実行委員、NGO 非戦ネット（参加団体）

かながわ「ともに生きる学習会」にビビンバネットを通じて事業参加

あーすネット幹事会（幹事）、あーすフェスタかながわ実行委員会（委員）

「東日本大震災 復興支援まつり」実行委員会、東日本大震災復興・支援ネットワークかながわ（幹事）

成果：

- ・ 横浜 NGO ネットワーク（理事）、かながわ生き生き市民基金（理事、評議員）、キララ賞選考委員会（委員）、南北
コリアと日本のともだち展絵画展実行委員、あーすネット幹事会（幹事）、東日本大震災復興支援まつり実行委員
会、東日本大震災復興・支援ネットかながわ（幹事）の各団体活動に参加した。
- ・ NGO 非戦ネット参加団体としてのアクションはなかった。
- ・ かながわ生き生き市民基金での遺贈の新たな仕組みについて検討、準備会に参加した。
- ・ その他参加団体
国際協力 NGO センター（JANIC）、開発教育協会（DEAR）、APLA

課題：団体の情報を理事会に戻しきれないものがあつた。参加団体についての検討が必要と考える。

6) この法人の目的達成に必要な事業

活動目標：

- 1、理事会の開催。
- 2、安定した運営のため会員拡大に取り組む。
- 3、ネパール「教育サポーター募金」に取り組む。
- 4、書き損じはがき（もったいないキャンペーン）、年末募金、企業・個人からの寄付、遺贈等、多様な方法を通じ
て活動に共感する市民を増やす。
- 5、事業計画推進のため「活動推進チーム」を設置する。
- 6、第5次3か年計画の総括と次期中期計画の立案を行う。
- 7、インターン、ボランティアの受け入れを行う。

成果：

- ・ 活動の適正のための理事会の定例開催と必要に応じて臨時理事会を開催した。
- ・ ネパール「教育サポーター募金」、年末募金、個人寄付、助成金、書き損じはがき等、様々なツールを通して地球の
木の活動への共感を得る取り組みを行った。
- ・ 「活動推進チーム」を設置し、活動の浸透を図る企画として新たに「地球の木カフェ」が各地で開催され、活動報
告の機会が増えた。
- ・ 第5次3か年計画の総括と次期計画策定のため臨時理事会や拡大ミーティングを開催し、意見交換・情報の共有を
図ることができた。
- ・ インターン、ボランティアの受け入れを行った。

課題：会員減少への対策ができなかった。喫緊の課題であり引き続き解決に取り組む。

地球の木会員数（2019年3月末） 正 会 員： 147名 サポート会員： 505名（内団体会員3） 合 計： 655名	2018年度入退会者数と主な退会理由 入 会 者： 5名 退 会 者： 28名 退 会 理 由： 経済的理由・活動整理など
---	--

以上